

2025（令和7）年度 福岡女子大学 一般選抜個別学力検査

〔 後期日程試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 90 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は4ページから11ページにあります。問題は**1題**です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には裏にも解答欄があります。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄**に**受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください。**

問題 次の文章を読み、以下の問一と問二に答えなさい。

いつの時代にも、今は過渡期だとか、転換期だということが言われます。今もそうなのですが、なかでも現代の特徴は、その行き先が不透明だということです。ひとこと言えば、未来が見えない、あるいは掠め^{かす}られている、というのが特徴でしょう。

日々の生活をとりまく社会的な問題、よく言われる少子高齢化や、医療費増大などに絡んだ福祉の問題、それから、経済の長期低迷の中での雇用の問題、子供たちの教育のことなどが、視界を遮る雲のように目の前を覆っているわけです。

そして、そんな状況にいたっている社会は、一体どんな原理が導いているのかと考えてみると、産業経済のシステム、それを動かすエネルギーの問題、また人間の生活のあり方を変えてゆくテクノロジーの問題などがあります。テクノロジーは人間生活の便利さや効率を実現するだけでしたが、今では人間そのものを改変するという段階に入っています。

そんな問題にどう向き合ったらよいのか、どのように対応したらよいのか、ということが問われているのです。そして、これまでの構えからすると解答がない、あるいは「解答」の幻影に誘われて流されてゆく。それがまえを向いているのか後ろを向いているのか、もはや分からない。そういう意味で、今は非常に不確定な、先の見えない時代です。

しかし、そんな不安には我関せずと、万能の杖のようにまずIT（情報テクノロジー）化が進んでいます。IOTとかAIを社会の中にうまく取り入れると、高齢化社会も、過疎地の問題も解決して、すばらしい社会になるといつ

た展望です。コロナ禍もそれを加速する機会のように。

けれども、それは本当に納得できるでしょうか？総務省がやっているように、IT化プロモーションのビデオクリップでPRはできますが、都合のよいイメージで、実際に起こるだろうさまざまな問題を覆い隠しただけであって、そんな明るいビジョンから締め出されてゆく部分が一体どうなっていくのかは全く見せてくれません。

明るく描かれる未来はいわばバーチャル・フューチャーであり、ほとんど絵空事のようにです。そこにどんなバニシング・ポイント（消失点）が埋め込まれているかわからないから、その展望に安心はできません。地球温暖化とか核廃棄物処理といった、生活のレベルを超えた問題もあります。解決すべき課題はあまりに大きく、そんな将来のイメージが全般的な対応には全くなっていないということです。

とくに気になるのは、今の世界をある意味で象徴するのが、ビル・ゲイツやジェフ・ベゾス、ザッカーバーグといった歴史上類を見ないほどの圧倒的な富豪たちだということです。これは何を意味しているのか。現代世界の変容を導き、文明の未来を先取りするとみなされるような人たちが、私的に巨額の富を築く一方では、世界中に悲惨な貧困や荒廃が広がっているということです。

もちろん、ビル・ゲイツは、チャリティー精神を発揮して、富の一部をアフリカの子供たちの支援とかに使っていてその行動が成功する人間の手本にもなっています。

しかし、そこで見えなくなっている事実は、今やグローバル世界で誰もがそれに頼らざるを得ない仕組み、社会のコミュニケーション・ベースそのものが―それは本来、誰もが享受できるべきものです―、途方もない私財を生み出すものになっているということです。この大地や海や空が、商品化を思いついた者の独占所有物になるかのように。

たとえば、Amazonは、単に包括的なネット販売網であるにとどまらず、それを元にして広範な製造業をもコ

ントロール下におき、経済活動から利潤が生まれ配分されてゆく仕組みを、バーチャルに一元化してしまいました。

誰もがそれぞれの環境のなかで「利便さ」を求めるから、それに応えるということで膨大で「フラット」なプラットフォームができて、あらゆる段階の利潤が吸い上げられるという仕組みです。そしてそんな展開の立志伝中の人物が、最も成功しかつ世界に貢献した人として仰ぎ見られ、未来をつくるビジネス人間のモデルともみなされているのです。

コロナ禍のさなか、イーロン・マスクのスペースX社が、NASAから新技術で宇宙ステーションに人を送り込みました。もはやアメリカという国家でさえ、資金の問題でできなくなった事業を、私的な企業が「人類に夢を与える」として引き受けているのです。マスクは、電気自動車をロケットに積んで宇宙に飛ばし、火星移住計画のような「夢」を提案していますが、その「脱出」の夢の背後には荒廃する人類世界が残されるのかもしれない。それが未来のパイロット・イメージとして社会に投げかけられているのです。

要するに、一九世紀、二〇世紀を通して近代文明が発達し、それが世界に展開して、多くの人びとがより豊かになってきたことを、次元を超えて単純化し、個人化されたモデル、プライベートな「自由」で引っぱるといった方向づけが働いているわけです。

(西谷修 二〇二〇『私たちはどんな世界を生きているか』による。一部改変。)

問一 本文中の波線（~~~~）部分に関して、著者は「現代の特徴」をどのように考えているか。文意に即して

四〇〇字以内で説明せよ。

問二 現代社会が抱えている様々な問題から一つを取り挙げて、それに対応するための考え方や方法を八〇〇字以内で論述せよ。

